

受験番号		名前	
------	--	----	--

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

しばらくすると、一人の子どもが、

「母ちゃん、あめ玉ちょうだい。」

と、手を差し出しました。すると、もう一人の子どもも、

「母ちゃん、①あたしにも。」

と言いました。お母さんは、ふところから紙のふくろを取り出しました。ところが、あめ玉は、もう一つしかありませんでした。

「あたしにちょうだい。」

「あたしにちょうだい。」

二人の子どもは、両方から②せがみました。あめ玉は一つしかないので、お母さんはこまっしまいました。

「いい子たちだから、待っておいで。向こうへ着いたら、買ってあげるからね。」

と言って聞かせても、子どもたちは、

「ちょうだいよう、ちょうだいよう。」

と、だだをこねました。

いねむりをしていたはずのさむらいは、ぱっちり目を開けて、子どもたちが③せがむのを見ていました。

お母さんはおどろきました。いねむりをじやまされたので、このおさむらいはおこっているにちがいない、と思いました。

「④おとなしくしておいで。」

と、お母さんは子どもたちをなだめました。

けれど、子どもたちは聞きませんでした。

すると、⑤さむらいがすらりと刀をぬいて、お母さんと子どもたちの前にやって来ました。

お母さんは真っ青になって、子どもたちをかばいました。⑥いねむりのじやまをした子どもたちを、さむらいが切ってしまうと思ったのです。

問一 ①「あたしにも」の下に省略されている言葉は何ですか。文章中から抜き出さない。

()

問二 ②「せがみました」③「せがむ」とありますが、「せがむ」とほぼ同じ意味をもつ言葉を次から一つ選び、

記号に○をつけなさい。

- ア 甘える イ ねだる ウ おどす エ あたえる

問三 ④「おとなしくしておいで。」とお母さんが言ったのはなぜですか。

()

問四 ⑤「さむらいがすらりと刀をぬいて、お母さんと子どもたちの前にやって来」るのを見たときのお母さんの様子を表している言葉を文章中から十字以内で抜き出さない。

()

問五 ⑥「いねむりのじやまをした子どもたちを、さむらいが切ってしまう」を「子どもたち」を主語にして書き直しなさい。

()

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

日本語は、漢字によって飛躍的に進化した。漢字は使い勝手がよく、日常に欠くべからざる存在です。しかし、その①功とともに罪の部分も認めなくてはなりません。音と訓の誤解もそうですが、それよりも大きな問題は、漢字が日本語のもつ働きの意味を奪ってしまっていることです。

日本語は、「かく(書く・欠く・掛く)」のように、漢字でさまざまに書き分ける内容をもっています。このように多様な日本語の、その場その場の内容をひと目で識別できる手段が漢字です。(A)、いきおい漢字を多用するようになる。とくに最近では、パソコンですぐに難しい漢字が出てくるものだから、②なおさら安易に漢字を使用する傾向にあります。

(B)、そうした漢字依存が、日本語のもつ本来の意味を失わせていくことになりました。

(C)、右にあげた「かく」は、文字や絵を「かく」時に用いますが、このことばは、漢字や簡や紙が渡来する以前からあったと考えられます。

③文字がないのに、どうして「かく」ということばがあるのか。その答えが縄文の土器です。土をこねて成形したものに縄目をはりめぐらしたり、線文様などを刻んだりする。この時、先の尖ったもので、柔らかい粘土を引っ掻くでしょう。原初の「かく」とは、掻いて表面の土や石を欠くことだったのです。

ものに傷をつける「掻く」行為は、指を使って行う動作です。後世の例ではありませんが、琴を「掻き鳴らす」など、「かく」は、指先や爪で何かを動かすことを示す接頭語として用いられることもあります。ですから漢字が入ってきた時、指を使って何かを記す動作を「かく」といい、同じく指で絵に表すことも「かく」といったのです。そして両者を、「書く」「描く」などと漢字を変えて区別するようになりました。しかしそのために、「かく」というやまとことばが、本来はどういう働きを示すものなのかが、わかりにくくなってしまいました。

一休ばなしに「このはしわたるべからず」という、有名な話がありますね。単なる駄洒落のように受けとめられていますが、これこそ、日本語の豊かさを示してくれる逸話です。「はし」は橋なのか端なのか、どちらの意味だろうか、意味を限定して理解しようとするほど、日本語をやせさせるものはありません。

(D)、「はし」には本来、「間」の意味がありました。たとえば箸は二本の間でつかむから、「はし」、鳥の「くちばし」も同様です。兩岸をつなぐから、橋を「はし」といったのです。この頓知から、「橋」「端」「間」を思い浮かべる遊びは、楽しいではありませんか。

柳田国男は「どんな字病」ほど恐ろしい病気はないといいました。それは④「どんな字を書くのですか」と絶えず問いかける人々への警鐘です。

⑤日本語は包容力のある、創造性豊かな沃野をもちます。『ひらがなでよめばわかる日本語のふしぎ』中西進

※ 簡：文字や文章を記すために使われた竹の札 警鐘：人々の注意をうながすもののため

沃野：作物のよくできる平野

問一 (A) (B) (C) (D) に入る語を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア しかし イ さらに ウ だから エ たとえば

A…() B…() C…() D…()

問二 ①「功」とはよい点という意味ですが、漢字のよい点について具体的に説明している部分を「…である」と。に続くように、「…」より後の文中から探し、抜き出さなさい。

() であること。

問三 ②「なおさら」の意味として最も適切なものを選び、記号に○を書きなさい。

ア よほど イ まったく ウ ますます エ ちょうど

